

主会場選定にかかる市町照会 結果概要

1. 趣旨

- 候補地の所在する市町に対し、主会場整備に際し想定される課題等に対する意向の確認を行うため、文書にて照会、回答を得た。

(H25.12.24 付け依頼、H26.1.14 回答期限)

- 回答内容について、ヒアリングを実施（平成26年1月15日）

2. 回答概要（ヒアリングでの補足含む）

いずれの市町からも、主会場に選定された場合の施設活用についての期待の表明があり、市有施設等の使用については協力できる旨の回答があった。

なお、大津市については候補地として提案した「皇子山総合運動公園」については候補から取下げる旨の申出があった。

個別案件については以下のとおり。

(1) 彦根総合運動場

【彦根市】

- ・ 用途地域の不適合（現：第1種中高層住専地域）については、「近隣商業地域」への変更を行う。
- ・ 風致地区・城下町景観形成地域の規制（高さ規制）については、施設の位置、規模、意匠等周囲との調和が図れるよう考慮したうえで、彦根市景観審議会にて承認ができるよう進める。
- ・ 許容建築面積率等の超過回避や、駐車場の縮小の課題については、野球場を存置する前提で、都市計画公園である「金亀公園」の区域を拡大、一体の公園とすることで回避を図るとともに、周辺の民有地も含めた利用可能な土地の地権者に協力を求め、新たな駐車スペースの確保を前提とした取組にも全面的に協力する用意がある。
- ・ 運動場周辺の道路改良等についても、市での実施を検討する。
- ・ 陸上競技運営に関し、市陸上競技協会が開催を強く希望していることに併せ、市職員をはじめとする人的支援は責任をもって対応する旨回答。
- ・ 会場候補地は現在彦根城の世界遺産登録におけるバッファゾーン（緩衝地帯）に位置付けられているが、今後登録推進の過程でバッファゾーンの範囲の見直しについても検討。

(2) 希望が丘文化公園

【野洲市・湖南市・竜王町】

- ・ 陸上競技会の運営については、2市1町間での役割分担等の調整が必要となるが、それぞれが応分の負担をする用意がある。
- ・ 国体開会期間中のアクセス道路等の混雑への懸念があることから、会場へのアクセス改善が望まれる。(具体的には、国道8号線バイパスや、希望が丘文化公園内通路の改良も含めた東ゲートから西ゲートまでのアクセス路整備、菩提寺PAを活用したスマートインター整備等)

(3) びわこ文化公園都市

【大津市・草津市】

- ・ 用途地域の不適合(大津市)については、整備計画に基づき商業地域等への変更が必要となれば、県と協議・調整のうえ円滑な施設整備が図られるよう取り組む。
- ・ 陸上競技会の運営については「びわこ国体」を開催した実績や、「びわ湖毎日マラソン」等を主催し、その運営に市陸上競技協会も携わっている長年の実績からも問題はない。
- ・ 候補地近隣で計画のある都市計画道路については、今後主会場の整備計画に基づき道路整備が必要となれば、周辺道路整備も含め県と協議の上、整備を進めたい。

主会場選定にかかる照会事項（彦根総合運動場）

市町名：〔 彦 根 市 〕

	照会事項概要	回答
法令上の課題について	主会場の整備が、貴市で定める開発等の規制に抵触しないか。	主会場の整備については、従前敷地内において盛土等の再造成がない限り通常の管理行為、軽易な行為として開発許可は不要です。なお、都市公園施設として整備される場合は、公益施設として都市計画法上適用除外となり開発許可不要となります。 また、建築物の高さが一定基準以上となる場合は、中高層建築物として彦根市宅地開発指導要綱に基づき、緑化や消防活動空間などについて本市と協議いただくと共に地元説明をお願いすることになります。
	用途地域の不適合についてどのように考えるか。 （現：第1種中高層住専地域）	現在の彦根総合運動場の施設は、用途地域に適合していないものとなっております。これまでは建築審査会の同意により建築されておりましたが、今後施設を再整備される場合には、本市としても用途地域に適合させることが適切と判断することから、近隣商業地域への用途地域変更を行いたいと考えております。
	風致地区・城下町景観形成地域の規制（高さ規制）に抵触することについてどのように考えるか。	風致地区にかかる高さ規制は、15mとなっております。また景観上の高さ規制は、現行12m（住居系）となっておりますが、上記用途地域変更により15m（商業系）になる予定です。 その上で、高さ基準を超える場合は、施設の位置・規模・意匠・形態・彦根城との眺望景観等に対して、周囲との調和が図れるよう考慮していただいたうえで、市風致条例第5条第1項第1号ウ（ア）のただし書きの適用について、彦根市景観審議会と協議しながら風致地区の手続きの承認が出来るよう進めて参りたいと考えております。
	公園敷地に関して、許容建築面積率（建ぺい率）等の超過を回避するために、貴市として具体的に協力いただける事項があるか。	近隣には、都市計画公園としての総合公園5・5・2金亀公園（37.9ha）があります。この金亀公園の区域を拡大し一体の公園とすることが、これらの超過を回避する手段の一つであるとも考えられます。今後は、滋賀県都市計画課と調整しながら公園整備事業として採択を受けられるように新たな用地の確保も視野に入れ、区域設定について協力していきたいと考えております。
整備上の課題について	主会場の整備が、貴市の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。	彦根シティーマラソン等、本市開催のスポーツ大会やイベントは、彦根総合運動場をお借りしています。国宝彦根城等の文化遺産とスポーツの調和を目指した様々な取り組みにより、多くの来彦者をもたらし、活気のある街づくりの実現がなされています。このことから、さらなる街づくりや活性化のため、総合運動場の施設・設備機能の向上は、彦根市民はもとより、利用される方々の強い要望と考えています。
	整備に伴い廃止となり、敷地内での機能回復ができない施設が生じる可能性があるが、どのように考えるか。	機能回復ができない種目の施設・設備は、本市であれば荒神山公園運動施設や他の運動施設・設備に代替機能を持たせることができます。長期的には、彦根市内に県営施設として新たに建設できるよう協力していきます。
	施設配置計画によっては、現施設の駐車場が縮小される可能性があるが、どのような影響が考えられるか。	本市では、イベント開催時には、近隣の市の保有する駐車場他、民間の駐車場を借用しシャトルバス輸送することで、駐車場不足をカバーしています。このようなノウハウは、団体開催時にも活用し協力できる体制にあります。また、公園整備拡大による駐車スペース縮小の場合、周辺の民有地である農地を含めた利用可能な土地の地権者に協力を求め、新たな駐車スペースの確保を前提とした取り組みにも全面的に協力する用意があります。

主会場選定にかかる照会事項（彦根総合運動場）

市町名：[彦根市]

	照会事項概要	回答
式典運営上の課題について	会場周辺の市有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて、協力をいただけるか。	彦根市民体育センターならびに269台の駐車スペース、金亀公園の176台分の駐車スペースや多目的グラウンドや野球場は、主会場になれば全面的に協力し提供させていただきます。加えて、城北小学校や滋賀大学、近江高等学校等は、駐車場のみならず「おもてなし空間」等々の転用可能な施設・設備であり、既に全面的に協力できることのできることを理解しています。
市としての競技運営について	国体開催時には、地元市が陸上競技会の運営主体となることに対し、どのように考えるか。（他の競技を開催する場合の影響も含め、どのように考えるか。）	本市陸上競技協会は、競技力向上やポスト国体の競技会場の有効活用まで見据え、本市開催を強く希望しています。また、役員動員についても市職員はもちろん、市民ボランティアなど人的支援は責任を持って対応できます。他の競技種目との関係についても、本市開設予定の国体準備室や体育協会が中心となり、種目間の運営の調整等々、開催種目が決定次第、早期に取り組む予定です。
その他	主会場の整備を、貴市のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。	湖東・湖北市町による「彦根主会場招致要望書」では、経済・産業・観光等々、県全体の均衡と発展を前提に、その起点となるのが彦根総合運動場としています。即ち、湖東・湖北は、開発可能な運動施設・設備用地、商業・工業用地や豊かな人材を有しており、国体主会場の開催をきっかけとして全県域への様々な波及効果が期待できます。また、滋賀県の地理的中心地であるばかりか、近畿・東海・北陸の人口重心地であることによる重要な防災拠点としての活用も考えられます。さらに、彦根港は、基幹的広域湖岸輸送拠点として琵琶湖西岸断層帯地震発生時には、湖上輸送による湖西方面の避難対応も可能です。なによりも、新幹線や高速道路等の交通アクセスの良さや、魅力的な歴史遺産や観光資源は、多くの来県者の滞在が見込まれます。東京オリンピックキャンプ地としても、新幹線を利用できることは、候補地として大きな強みと考えられます。このように、主会場整備が一地域の発展だけでなく、全県のメリットとなるよう、本市の政策を発展的に進めることが必要と考えています。
	世界遺産登録に向けた貴市の取り組みへの影響をどのように考えるか。	会場候補地は、彦根城の世界遺産登録におけるバッファゾーン（緩衝地帯）に位置づけられています。現在のバッファゾーンは確定したものではないことから、今後、彦根城の世界遺産登録を推進して行く中でバッファゾーンの範囲の見直しについても検討してまいります。
	現在、彦根総合運動場では夜間照明施設使用について地元自治会との事前協議が必要となっているが、主会場が整備された場合の影響についてどのように考えるか。	地元自治会との「覚え書」は、野球場夜間照明の点灯制限について触れています。今回の主会場は、新たな施設であり抵触することはないと思われます。周辺自治会には丁寧な説明のもと、建設に協力いただけるよう責任を持って対応します。

主会場選定にかかる照会事項（希望が丘文化公園）回答

市町名：〔 野 洲 市 〕

	照会事項概要	回答
法令上の課題について	主会場の整備が、貴市で定める開発等の規制に抵触しないか。	<p>景観は一般地区該当のため、13m以上の建築物の場合、届出が必要。</p> <p>主会場整備（競技場、サブグラウンド）については、都計法第29-1-3に定める公益施設であれば開発許可および市指導要綱協議は不要。</p> <p>【設置者：公園管理者 都市公園法第2-2施行令第5条 公園施設である建築物】</p> <p>ただし、上記以外の施設整備については、事前協議が必要。</p> <p>※建築確認申請時に都計法29-1の規定に適合していることを証する証明（60条証明）が必要な場合あり。</p> <p>1ha以下の森林開発は、「伐採及び伐採後の造林の届出書」の提出要(市に提出)</p> <p>国体開催時に市道上に案内看板等を設置される場合は道路法32条の届出が必要。</p>
整備上の課題について	主会場の整備が、貴市の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。	<p>開会期間中はアクセス道路、およびこれに接続する国道8号に交通が集中することが想定され、更なる交通渋滞が見込まれる。国道8号は現状で渋滞が著しいため、国道8号バイパスの野洲栗東間の早期着工と野洲竜王方面への延伸が望まれる。また、国道8号への影響を軽減し、主会場までのアクセスを向上させるための施設整備が望まれる。(希望が丘東ゲート付近から主会場までのアクセス路の整備、主会場至近の菩提寺PAを活用したスマートインターチェンジの整備など)</p>
式典運営上の課題について	会場周辺の市有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて協力をいただけるか。	<p>近傍施設として歴史民俗博物館、野洲図書館、野洲市健康福祉センター等が想定されるが、当該施設の業務に支障のない範囲内での協力が可能である。</p> <p>現在、野洲市では平成26年秋を目途にJR野洲駅南口ロータリーの改修を進めている。また、近江八幡市・野洲市・竜王町で構成する篠原駅周辺都市基盤整備推進協議会では平成27年3月を目途に篠原駅駅舎の改修を行っており、これにあわせて駅南口に新たなロータリーの設置を進めている。これらの整備により、主会場までのバス等公共交通の利便性が向上する。</p>
市としての競技運営について	国体開催時には、地元市が陸上競技会の運営主体となることに対し、どのように考えるか。（他の競技を開催する場合の影響も含め、どのように考えるか。）	<p>2市1町での運営となった場合、陸上競技会の運営については県との調整に加えて2市1町での調整が必要となり、事案の決定に時間を要すると思われる。</p> <p>陸上競技会の運営主体となった場合、本市の規模から他の競技を受入れるには人員の確保が課題となる。</p>
その他	主会場の整備を、貴市のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。	<p>主会場の建設により市内に第1種陸上競技場が整備されるため、スポーツ機運の高揚、アスリート育成への効果が期待される。</p> <p>また、あわせて防災拠点機能の強化が期待される。</p>
	国体開催時における、関係2市1町の役割分担のあり方について、現時点でどのように考えているか。	<p>2市1町での運営となった場合は役割だけでなく、財政負担、人員などの負担割合を早期に定めることが必要である。</p>

主会場選定にかかる照会事項（希望が丘文化公園）

市町名：[湖 南 市]

	照会事項概要	回答
法令上の課題について	主会場の整備が、貴市で定める開発等の規制に抵触しないか。	現時点においては、開発の規制には抵触しないと思われるが、今後の計画においては担当課との協議が必要である。
整備上の課題について	主会場の整備が、貴市の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。	湖南省のサイドタウン自治会を横断して進入する希望が丘文化公園南ゲートについては道路幅が狭く、名神高速道路下のトンネルは車1台分の車幅しかなく、周辺環境や道路整備にも配慮が必要である。 平成26年9月頃に湖南省景観計画を策定予定であり、景観に十分配慮した整備計画とする必要がある。
式典運営上の課題について	会場周辺の市有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて協力をいただけるか。	具体的に使用する範囲が決まっていないが、通常業務に支障のない範囲であれば施設管理者と協議のうえで使用は可能である。
市としての競技運営について	国体開催時には、地元市が陸上競技会の運営主体となることに対し、どのように考えるか。（他の競技を開催する場合の影響も含め、どのように考えるか。）	地元市としての応分の対応が必要と考える。特に、人的、財政的負担が生じる場合は、県及び関係市町との十分な協議が必要である。また、他に担当する競技種目の運営負担を勘案していただく必要があると考える。
その他	主会場の整備を、貴町のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。	主会場となることにより、スポーツ振興の視点はもとより、地域の活性化からの視点も重要な要素であることから、市として今後の重点項目として捉えていく必要がある。また、防災拠点機能の強化が期待される。
	国体開催時における、関係2市1町の役割分担のあり方について、現時点でどのように考えているか。	それぞれ応分の役割を担う必要があると考えており、2市1町の調整会議において、検討を諮りながら進めていきたいと考えている。

主会場選定にかかる照会事項（希望が丘文化公園）

市町名：〔 竜 王 町 〕

	照会事項概要	回答
整備上の課題について	主会場の整備が、貴町の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。	竜王IC周辺から国道8号方面への交通混雑を懸念することから、希望が丘文化公園の東口付近からの路線整備等を行うことで回避できるのではないかと考えている。具体的には、文化公園内に周辺環境に配慮した新設道路（東山裾、等）を設け、アクセスすることにより将来的にも広域連携が高まると考えます。
式典運営上の課題について	会場周辺の町有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて協力をいただけるか。	町有施設の使用については、出来る限り協力します。
町としての競技運営について	国体開催時には、地元市町が陸上競技会の運営主体となることに対し、どのように考えるか。（他の競技を開催する場合の影響も含め、どのように考えるか。）	小規模自治体であるが、2市1町が連携し運営が行える体制づくりを考えて行きたい。
その他	主会場の整備を、貴町のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。	希望が丘文化公園周辺エリアについては、関係2市1町において、当区域を県内の防災拠点にとどまらず府県をまたぐ広域防災拠点構想に向けた研究を行っており、当区域における主会場の整備は、周辺の道路等インフラの整備により、その構想の実現が期待できるものと考えている。
	国体開催時における、関係2市1町の役割分担のあり方について、現時点でどのように考えているか。	生涯スポーツの推進は言うまでもなく、幅広い年代層への日常の体力向上と健康づくりへのソフト事業の発展につなげ、人づくりがまちづくりになるものとする。また、希望ヶ丘スポーツ施設の有効な利用促進を図ることに期待が持てる。（広域利用） 2市1町が連携し協力体制を構築していきたいと考えます。

主会場選定にかかる照会事項（びわこ文化公園都市）

市町名：〔 大 津 市 〕

	照会事項概要	回答
<p>法令上の 課題について</p>	<p>主会場の整備が、貴市で定める開発等の規制に抵触しないか。</p>	<p>主会場の整備につきましては、施設整備区域が都市計画公園決定がされますよう滋賀県と調整を進めてまいります。また、開発等の規制につきましても、その手続きが円滑に進むよう、滋賀県担当部局と調整してまいります。</p>
	<p>用途地域の不適合についてどのように考えるか。 (現：第1種低層住専地域・第1種高度地区)</p>	<p>現在の用途地域については、第一種住居専用地域となっておりますが、今後、国体事業の概要が定まり整備計画に基づき、用途地域(商業地域等)の変更が必要となれば、滋賀県と協議の上、都市計画審議会など関係機関と十分な調整を行い、円滑な施設整備が図られるよう取組んでまいります。</p>
<p>整備上の 課題について</p>	<p>主会場の整備が、貴市の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。</p>	<p>新たなスポーツ施設が市内東部に新設されることは、市民が待ち望んでいたことであります。大津市総合計画の基本方針「次代を支える“ひとのつながり”を創る」、基本施策「次代を担う“まちのにぎわい”を創る」、施策の「生涯スポーツの盛んなまちづくり」を掲げていることから、新たな施設が市内東部に新設されることは、「スポーツを通じ郷土を愛し、支える人材育成」や「次代を担う子どもや若者がスポーツの意義や楽しみに触れ、夢を育てる」、「スポーツに親しみ生涯にわたり健康な生活を送る」などの機会の場が増えることにより、住む人びとの「暮らしの質」が高められ、「絆」を深められるものと考えています。</p> <p>また、将来都市像の基本フレームにおける都市構造図において、びわこ文化公園ゾーンを位置づけ、同じく、第4次大津市国土利用計画においても、土地利用に関する基本構想の都市構造図において、びわこ文化公園ゾーンを位置付けております。さらには、大津市都市計画マスタープランにおいて、当該地域のまちづくり目標として、びわこ文化公園ゾーンの機能充実を掲げております。</p> <p>周辺環境に与える影響については、この地域周辺には、名神高速道路、新名神高速道路、京滋バイパスなど道路交通網の整備が進み、広域交通アクセスに非常に優れており、また、県立美術館、県立図書館、県立アリーナなどの県立施設を有し、滋賀医科大学や立命館大学、龍谷大学が近接し、また、数多くの小中高等学校が立地し、さらには宿泊・商業施設や観光資源も多くあり、県内でも最も人口集積が高い地域にあります。</p> <p>このことから、①スポーツ振興及び文化教養の一大拠点として更なる発展が見込まれ、②スポーツツーリズムによる地域経済の活性化が図れ、③全国からお越しいただく選手や関係者を「おもてなし」できるものであります。</p> <p>また、学校の運動施設等を大会・練習会場として有効活用し、学生の協力による大会運営が見込めるなど、青少年の健全育成にも大きく寄与するものであります。</p> <p>さらには、この地での主会場建設は、ユニバーサルデザインの採用はもとより、豊かな自然環境と調和した人にもやさしい魅力ある施設として滋賀県の魅力を最大限に発揮することができ、大会終了後においても広域防災拠点など多目的な利活用ができるものと考えています。</p>

	照会事項概要	回答
整備上の課題について	主会場整備に際し、当該地域で大規模な開発行為を行うことについて、貴市としてどのように考えるか。（地元住民への影響も含め、どのように考えるか。）	県にあつては、びわこ文化公園都市内で、これまでに近代美術館、図書館、アイスアリーナなど自然環境を活用した調和ある施設づくりの十分な実績を持っておられるため、市民の憩いの場として多くの利用者がいます。こうしたことから施設整備にかかる環境面への配慮や地元説明など県市が連携して取組めるものと考えています。
式典運営上の課題について	会場周辺の市有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて協力をいただけるか。	国体開催会期中の市有施設の使用については、県と協議を重ねながら積極的に使用できるように協力してまいります。
市としての競技運営について	国体開催時には、地元市が陸上競技会の運営主体となることに対し、どのように考えるか。（他の競技を開催する場合の影響も含め、どのように考えるか。）	本市は皇子山総合運動公園を主会場として昭和56年にびわこ国体を開催した実績やスポーツの振興を推進するにあたり、大津市体育協会や各競技団体、各種関係団体との連携により実施している実績があることから陸上競技会の運営主体となることについては問題ないものと考えています。また、滋賀県陸上競技協会や大津市陸上競技協会は、大津市が主催等となって毎年開催しております「びわ湖毎日マラソン」や「市民駅伝」等の開催の運営に携わっておられる長年の実績があり、国体の陸上競技会の運営協力が得られるものと考えています。国体の開催に向けて、大会運営に関わる審判等の競技役員、会場運営に携わるスタッフの養成やボランティアの育成について、県と協議しながら、先催県の例も参考に積極的に各競技団体等と連携しながら養成を行ってまいりたいと考えています。なお、他の競技を開催についても円滑な競技運営のため、同様に関係団体、市民ボランティアとも協力体制づくりに努めてまいります。
その他	当該地への主会場の整備を、貴市のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。	びわこ文化公園都市に主会場として新たにスポーツ施設が整備されることは、名神高速道路や新名神高速道路等広域交通のアクセスや大学・企業連携による国体準備やスポーツ振興などのメリットがあることから、市民はもとより県民にとつて「夢育て」、「スポーツの推進・健康育て」、「地域育て」などができる地域になるものと期待しております。また、スポーツ施設の拠点だけでなく防災など多目的に使用できる施設となるため、立地する地域の振興や活性化にも大きく寄与するものと考えています。
	当該地域における道路整備計画（都市計画道路3.4.73号南大萱上田上線）に基づく整備について現時点でどのように考えるか。	都市計画道路3・4・73号南大萱上田上線の整備については、本市が平成25年3月に策定した「大津市道路網整備計画」で10年～20年以内に着手（長期）する路線に位置づけておりますが、今後、国体事業の概要が定まり、整備計画に基づき道路整備が必要となれば、周辺道路整備も含め県と協議を行ない、当該路線の整備を進めたいと考えています。

主会場選定にかかる照会事項（びわこ文化公園都市）

市町名：〔 草 津 市 〕

照会事項概要	回答
<p>整備上の課題について</p> <p>主会場の整備が、貴市の政策や、周辺環境に与える影響についてどのように考えるか。</p>	<p>草津市総合計画では、びわこ文化公園都市付近を「文化・交流ゾーン」「学術・福祉拠点」に位置付け、草津JCTや草津田上ICによる地の利を最大限に生かした場所として、産学官あるいは研究機関との連携、新たな産業の創出や福祉・医療、文化等の交流促進に取り組んでおります。</p> <p>びわこ文化公園都市が主会場として整備されることは、スポーツの分野とこれらの各分野の交流促進が図られ、本市の政策にも好影響が期待できると考えます。</p> <p>なお、整備にあたっての交通アクセス対策や大規模開発に伴う課題への対応については、開発にあたっての協議や調整をいただきますようお願いいたします。</p>
<p>式典運営上の課題について</p> <p>会場周辺の市有施設（駐車場等）を、国体会期中使用することについて協力をいただけるか。</p>	<p>びわこ文化公園都市周辺には、大規模な駐車場を併設している市有施設はありませんが、南草津駅や草津駅周辺の市営駐車場などについては利用可能でありますので、可能な限りの協力をさせていただきます。</p>
<p>その他</p> <p>主会場の整備を、貴市のまちづくりや地域振興にどのように活かすことができると考えているか。</p>	<p>主会場整備計画の企画・立案段階から近隣学校（立命館大学等）にも参画いただくことで、国体開催中の運営への主体的な参加、国体後の施設利用などが期待できると考えます。</p> <p>また、大規模大会等の実施によるシティセールス活動やまちのにぎわいの創出、地域経済の活性化とともに、日頃の施設利用による県民のスポーツ・健康・福祉の推進など、今後の地域振興に活かすことができると考えます。</p>

主会場選定にかかる関係競技団体聞き取り概要

1. 趣旨

- 各候補地の施設配置計画（案）により、代替施設の整備等の検討が必要となる関係競技団体役員に対し、その影響について聞き取りを行った。
- いずれも団体の組織決定を受けての回答ではない。
- 内容は主として、現施設内に代替施設の設置が困難な彦根総合運動場の施設（テニスコート・野球場・プール）についての意見となった。

2. 聞き取り内容の概要

1月27日現在で聞き取りを行った団体の意向は以下のとおり

(1) 県テニス協会

- ・ 高体連やジュニアの大会等、高校生の試合が多く、彦根のテニス会場が減ると運営が大変苦しい。
- ・ 彦根総合運動場のテニスコートが使用できないと、長浜ドーム、希望が丘、大石緑地（大津市）のテニスコートを使用することになるが、いずれもほぼ同時に小・中学生の試合が開催されており、土日の会場確保は特に難しい。

(2) 県ソフトテニス連盟

- ・ 彦根総合運動場、金亀公園（彦根市）、長浜市民庭球場、長浜ドームのテニスコートで40面を確保し、「全国（高校）女子選抜研修大会」を20年以上継続しているが、彦根が使用できないと継続が困難。
- ・ 市営のテニスコートは市民利用を優先させるので、（県レベル以上の）大会使用では全体の半分しか貸してくれないケースもある。

(3) 県高等学校野球連盟

- ・ 彦根球場は、春季大会では全日程を通じ10日間、秋季大会では8日間程度使用。夏の選手権大会では皇子山球場と隔年でメイン球場として使用。
- ・ 伝統ある県立球場として、高校球児にとって象徴的な球場である。
- ・ 千人以上の観客を余裕をもって収容できる球場は、県内では皇子山球場（大津市）と彦根球場のみである。
- ・ 県北部、東部の拠点球場が失われることになれば、高校野球のみならず県全体の競技レベルの低下につながる。

（次頁に続く）

(4) 県軟式野球連盟

- 彦根球場は皇子山球場と並ぶ県下を代表する野球場であり、近畿大会や全国大会の開催ができなくなる。また、全国大会や近畿大会の予選など大会の運営に支障をきたす。

(5) 県水泳連盟

- 現在、県内に補助プールを持つ50m公認プールは彦根スイミングセンターと、大津市の皇子が丘プールのみである。皇子が丘は大津市立のため、夏季は補助プールの市民利用が優先されるため、大会等の際補助プールを練習会場としては使用できない。
- 数年に1回、中体連や高体連の近畿大会を持ち回りで開催しなければならず、この間補助プールが使える公認プールの確保が必須となる。
- 県内の既存の50m公認プールは、国体をはじめとする全国大会の開催基準を満たさないため、水泳連盟としては平成36年の国体や、その後の普及・強化の拠点として使用可能なプールを新たに整備することが望ましいと考えている。2020年に間に合えば、東京オリンピック合宿地の有力候補にもなり得る。
- 新設の場合、後利用を考えると、交通の便のいい場所への設置が望ましいと考えている。
- 他府県の例では、プールの底を可動式とすることで、プール以外の用途（アリーナ、イベント会場等）での使用が可能な施設もある。屋根付きとすることで、飲料水確保も含めた防災拠点としての活用も見込める。

(6) 県中学校体育連盟

- 彦根総合運動場テニスコートはソフトテニス専門部で県大会やブロック大会の会場として使用。JR彦根駅からも徒歩で移動でき、中学校の大会会場としては便利である。
- 彦根スイミングセンターは県大会やブロック予選の会場として使用。現在飛込プールは彦根スイミングセンターにしかなく、使用不可となると飛込競技の活動拠点が失われてしまう。

(7) 県高等学校体育連盟

- テニス専門部が彦根総合運動場と大石緑地のテニスコートを大会会場として使用。
- 彦根スイミングセンターは競泳、水球、飛込の大会会場となっている。

(以上)

各施設配置計画(案)に対する概算事業費

単位:百万円

費目	彦根総合運動場(A案)	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	備考
基盤工事費	1,240	750	4,490	
基盤整備費	200	700	4,490	
撤去費	1,040	50	—	
施設整備工事費	10,490	10,460	10,760	
用地補償費	—	—	3,620	※びわこ公園の用地費には土地開発公社先行取得用地を含む
間接費	1,760	1,680	2,830	上記費目計の15%
基本事業費計	13,490	12,890	21,700	
特殊工事費	2,340	2,020	340	
地盤対策費等	1,370	450	340	
その他園内必要施設	970	1,570	—	彦根:駐車場ほか(用地費含む) 希望:園内通路整備(橋梁架替含む)
代替施設整備費	1,740	580	—	
テニスコート(工事費)	640	580	—	
(用地費)	300	—	—	
多目的グラウンド(工事費)	240	—	—	
(用地費)	410	—	—	
スポーツ会館(建設費)	150	—	—	
その他想定される経費	610	2,280	300	
関連公共施設整備費	—	1,640	220	希望:スマートIC整備費(地方自治体負担分) びわ:上下水道施設整備費
間接費	610	640	80	上記費目計の15%
関連事業費計	4,690	4,880	640	
事業費総計	18,180	17,770	22,340	

現状の年間維持管理費 (過去3年平均)	123	485	—	
整備後の想定年間維持管理費	166	528	143	
年間維持管理費の増加分	43	43	143	

概算事業費算定概要

単位:百万円

費 目	彦根総合 運動場(A案)	希望が丘 文化公園	びわこ文化 公園都市
特殊工事費			
地盤対策費等	1,370	450	340
	<ul style="list-style-type: none"> ・地下約12mの地盤までを深層混合処理(注1)する。(改良は、競技場内面積の約20%程度とする。) ・さらに表層部分約1mについては全面を表層混合処理(注2)し、沈下の低減を図る。 ・スタンド部分については、深さ約20mまで基礎杭を施工する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技場内については、地表部分約2mについて全面に表層混合処理を施し、現状の沈下の低減を図る。 ・スタンド部分については、深さ約10mまで基礎杭を施工する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンド予定位置における盛土部分(約60%)について、深さ約20mの基礎杭を施工する。
その他園内必要施設	970	1,570	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・彦根市から提案のあった敷地拡張部分について、用地補償費、造成費や園地・駐車場整備費を計上する。 拡張面積 約2.5ha (うち市有地0.8haを除く1.7haを買収) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存橋梁(L=72m 有効幅員7m)を同構造の大型車対応の橋梁(L=72m、幅員9m)に架替える。 (構造:上路式逆ランガー橋) ・園内通路整備 約4km 	-
代替施設整備費			
テニスコート	940	580	-
	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 砂入り人工芝コート 12面、 スタンド 400㎡(約500人収容) 用地面積 10,400㎡ 	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 人工芝コート 5面 (うち3面屋根付き) 	-
多目的グラウンド	650	-	-
	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 施設・用地面積 14,000㎡ 	-	-
スポーツ会館	150	-	-
	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 建築面積 500㎡ 	-	-
その他想定される経費			
関連公共施設整備	-	1,640	220
	-	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 スマートIC整備 1式 (地方自治体負担分のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設概要 上水管路整備 約400m 配水池負担金 1式 下水道管路整備 約1,000m

(注1) 深層混合処理 :セメント系固化材と原地盤の軟弱土を攪拌・混合し柱状に固化する工法

(注2) 表層混合処理 :セメント系固化材により原地盤の表層部分を固化する工法(深さ3m程度まで)

維持管理費検討資料

1 現状の維持管理単価

施設名称	①平均年間維持管理費(円/年)	敷地面積(m ²)	②維持管理費単価(円/m ² /年)	備 考
彦根総合運動場 (H22～24決算平均)	123,038,298	140,000	879	敷地面積 14.0ha 競技場 第2種陸上競技場 収容人数 6,000人(うち芝生4,900人) S14年 竣工 S44年 第2種公認
希望が丘 (H22～24決算平均)	485,367,508	1,030,000	471	敷地面積 103ha(全体416haから自然山林を除いた部分) 競技場 第4種陸上競技場 収容人数 4,000人(芝生席) S47完成 H10年 第4種公認
<算定基礎とする施設>				
A 紀三井寺公園(和歌山県) (H22～24収支報告平均)	132,467,333	149,000	889	敷地面積 14.6ha+0.33ha(相撲競技場) 競技場 第1種、第3種陸上競技場 収容人数 19,200人(うち芝生5,950人) S39完成、H24改修 その他設置施設 野球場、テニスコート、児童公園ほか
B 厚別公園競技場(札幌市) (H22～24収支報告平均)	71,831,333	132,000	544	敷地面積 13.2ha 競技場 第1種、第3種陸上競技場 収容人数 20,861人(うち芝生4,000人) S61完成 その他設置施設 -
C 丸亀競技場(香川県) (H22～24収支決算平均)	139,028,621	102,000	1,363	敷地面積 10.2ha 競技場 第1種、第3種陸上競技場 収容人数 30,099人(うち芝生6,000人) H9完成 その他設置施設 -
A～Cの平均値	114,442,429	127,667	932	

2 整備箇所維持管理費 設定単価

D 整備箇所維持管理費 設定単価 (円/m ² /年)	932
--	-----

3 各候補地維持管理費(想定)

	彦根A	希望が丘	び文
③整備箇所面積 (m ²)	132,312 (140,000m ² (全体)+17,000(敷地拡張部 分)-24,688m ² (野球場))	94,000 (1種、3種、入口広場、オープンスペース等)	153,000 (全体)
④整備箇所維持管理費 (円/年) =D×③	123,314,784	87,608,000	142,596,000
⑤従前箇所面積 (m ²)	24,688 (野球場)	936,000 (1,030,000m ² (全体)-94,000m ²)	-
⑥従前箇所維持管理費 (円/年) =②×⑤	21,700,752	440,856,000	-
⑦代替施設維持管理費 (円/年) =②×(面積)	21,447,600 (10,400m ² (テニス)+14,000m ² (多目的))	- ※テニスコートについては場内で機能復旧することを想定し、従前の維持管理費⑥に含めて算出する。	-
⑧全体維持管理費 (円/年) =④+⑥+⑦	166,463,136	528,464,000	142,596,000
現維持管理費からの 増加分(円) =⑧-①	43,424,838	43,096,492	142,596,000

各施設配置計画（案）における年間維持管理経費の財源

単位：百万円

区分	彦根総合 運動場(A案)	希望が丘 文化公園	びわこ文化 公園都市
ネーミングライツ料金収入	10	10	10
利用料金収入	32	115	14
指定管理料 (H22-24平均)	(100) 124	(398) 403	(-) 119
合計 (=年間維持管理経費)	166	528	143

◆ネーミングライツ料金(想定)

- 通常、ネーミングライツの価格は、「他の類似する施設の状況」「施設利用者数」「メディアへの露出度」等を考慮し算定される。
- ここでは、施設利用者数の見込を想定していないため、同規模(15,000~21,000人。下表)の施設の状況を参考にする。
- ただし、同規模の他施設は、Jリーグチームのホームスタジアムとなっていることから、施設利用者も多くメディア露出度も高い。
- そのため、本県においては、1種・3種のセット契約と仮定した場合でも、他県の3割減で見込むものとする。

新陸上競技場の年間ネーミングライツ料金 (下表の最大値と最小値を除く平均額×70%)	1,000万円
---	---------

都道府県	陸上競技場名	収容人員	年間料金	Jリーグ ホームスタジアム
神奈川県	相模原麻溝公園競技場	15,000人	1,000万円	S.C相模原 J.3
	(相模原ギオンスタジアム)			
群馬県	群馬県立敷島公園県営陸上競技場	15,000人	700万円	ザスパクサツ群馬 J.2
	(正田醤油スタジアム群馬)			
山梨県	小瀬スポーツ公園陸上競技場	17,000人	2,000万円	ヴァンフォーレ甲府 J.1
	(山梨中銀スタジアム)			
神奈川県	平塚競技場	18,500人	2,000万円	湘南ベルマーレ J.2
	(Shonan BMW スタジアム平塚)			
岡山県	岡山県総合グラウンド陸上競技場	20,000人	1,000万円	ファジアーノ岡山FC J.2
	(kankoスタジアム)			
山形県	山形県総合運動公園陸上競技場	20,000人	2,100万円	モンテディオ山形 J.2
	(NDソフトスタジアム山形)			
愛媛県	愛媛県総合運動公園陸上競技場	21,000人	2,234万円	愛媛FC J.2
	(ニンジニアスタジアム)			
福島県	福島県営あづま陸上競技場	21,000人	1,050万円	福島ユナイテッドFC J.3
	(とうほう・みんなのスタジアム)			

年間利用料金収入額（想定）

1. 県内施設の実績

（単位：円）

施設名称	陸上競技場 (2種 or 4種)	陸上競技場 以外の施設	合 計
彦根総合運動場 (H22～24平均)	1,844,597	A 17,909,448	19,754,045
希望が丘文化公園 (H22～24平均)	2,065,685	B 100,401,335	102,467,020

2. 他県類似施設(1種・3種陸上競技場のみの施設)の実績

（単位：円）

施設名称	陸上競技場 (1種・3種)	陸上競技場 以外の施設	合 計
厚別公園競技場(札幌市) (H22～24平均)	23,463,000	0	23,463,000
丸亀競技場(香川県) (H22～24平均)	17,052,247	0	17,052,247
平均(①)	20,257,623	0	20,257,623
参考額(①×70%)	C 14,180,336	/	

※本県は、他県類似施設ほどJリーグチームの使用を見込めないため、参考額は3割減とする。

3. 各候補地の年間利用料金収入額(想定)

（単位：円）

施設区分	彦根総合 運動場(A案)	希望が丘 文化公園	びわこ文化 公園都市
陸上競技場(1種・3種)	C 14,180,336	C 14,180,336	C 14,180,336
陸上競技場以外の施設	A 17,909,448	B 100,401,335	0
合 計	32,089,784	114,581,671	14,180,336



主会場整備スケジュール(案)

【彦根総合運動場】

関連事業 (根拠法令)	平成26年 (10年前)	平成27年 (9年前)	平成28年 (8年前)	平成29年 (7年前)	平成30年 (6年前)	平成31年 (5年前)	平成32年 (4年前)	平成33年 (3年前)	平成34年 (2年前)	平成35年 (1年前)	平成36年 (開催年)
都市計画決定 (都市計画法・都市公園法)		案の作成～決定・告示									
都市公園事業		地形測量・地質調査 都市公園基本計画～基本設計～実施設計		事業認可	基礎工事						
各種許可		事前協議・本申請～許可									
埋蔵文化財調査 (文化財保護法)		<免掘調査不要>									
											第27回 第49回 全国障害者スポーツ大会 開大会

【希望が丘文化公園】

関連事業 (根拠法令)	平成26年 (10年前)	平成27年 (9年前)	平成28年 (8年前)	平成29年 (7年前)	平成30年 (6年前)	平成31年 (5年前)	平成32年 (4年前)	平成33年 (3年前)	平成34年 (2年前)	平成35年 (1年前)	平成36年 (開催年)
都市計画決定 (都市計画法・都市公園法)		案の作成～決定・告示									
都市公園事業		地形測量・地質調査 都市公園基本計画～基本設計～実施設計		事業認可	基礎工事						
保安林解除ほか各種許可 (森林法ほか)		事前協議	本申請～許可								
埋蔵文化財調査 (文化財保護法)		<免掘調査不要>									
											第27回 第49回 全国障害者スポーツ大会 開大会

【びわこ文化公園都市】

※環境アセスメントや事業用地の取得、保安林解除などスケジュールを大きく左右する要因を含むが、それらを想定しないスケジュールとした。

関連事業 (根拠法令)	平成26年 (10年前)	平成27年 (9年前)	平成28年 (8年前)	平成29年 (7年前)	平成30年 (6年前)	平成31年 (5年前)	平成32年 (4年前)	平成33年 (3年前)	平成34年 (2年前)	平成35年 (1年前)	平成36年 (開催年)
環境アセスメント (滋賀県環境影響評価条例)		配置書～方法書～現地調査～準備書～評価書									
都市計画決定 (都市計画法・都市公園法)		戦略案の決定・案の作成～決定・告示									
都市公園事業		地形測量・地質調査 都市公園基本計画～基本設計～実施設計		事業認可	基礎工事						
保安林解除ほか各種許可 (森林法ほか)		事前協議	本申請～許可								
埋蔵文化財調査 (文化財保護法)		確認調査	(必要に応じ) 本調査[現地調査]				本調査[整理調査]				
											第27回 第49回 全国障害者スポーツ大会 開大会



主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

【資料5】

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	これまでの専門委員会での検討
1 施設整備にあたっての課題					
法令上の課題		<ul style="list-style-type: none"> ○用途地域不適合 →近隣商業地域に変更(彦根市) ○高さ規制(彦根城風致地区・城下町景観形成地域) →市景観審議会の承認を受けること対応(彦根市) ○運動施設面積率/許容建築面積率超過 →民有地買収等による敷地面積の拡大、金亀公園の区域拡大による対応(彦根市の協力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○保安林(土砂流出防備保安林)の解除(約2ha) →森林法に基づく手続きが必要 ・埋蔵文化財の調査 →踏査の結果、調査の必要なしと判断(県文化財保護課) 	<ul style="list-style-type: none"> ○用途地域不適合 →商業地域等に変更(大津市) ○保安林(土砂流出防備保安林)の解除(約12ha) →森林法に基づく手続きが必要 ○環境アセスメントの実施 →県条例に基づく手続きが必要 ○埋蔵文化財の調査 →踏査の結果、「人工的な平坦面」が確認されたため試掘を行い、調査の要非の判断を行う(県文化財保護課) 	
整備上の課題		<ul style="list-style-type: none"> ○彦根球場は彦根市、関係競技団体とも現状維持の要望が強い →敷地拡張を条件に現状維持 ○通常使用時の場内駐車スペース確保 →民有地買収等による敷地面積の拡大によるスペース確保が必要(彦根市の協力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○高低差への対応方法、法面工事の要否については、公園整備構想、基本計画策定過程で慎重な検討が必要 ○県内外の利用者に定着している、これまでの「希望が丘文化公園」のイメージや、公園に求められる機能(自然の保全と調和のとれた自然公園)に十分配慮し整備する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○山林における大規模造成工事、雨水排水対策の実施にあたり、適正工法の慎重な検討と、適正工期の確保が必要 ○事業区域内における用地買収(うち民有地については用地交渉)が必要 	<p>【希望が丘】 高低差への配慮が必要。また現在の競技場と同じ高さで整備すると、中央道との高低差があり、現在の希望が丘の風景の中にかなり圧迫感のある建物ができることになる</p>
	彦根総合運動場内プールについては、現状での国体競技開催は困難であることから、主会場がいずれの候補地になっても対応を検討する必要があるため、コスト算定からは除外する。	<ul style="list-style-type: none"> ○テニスコート/多目的グラウンドについては代替機能確保のためのコストを算定 ○スポーツ会館(宿泊施設)については、スタンド下スペースの活用も検討できるため、敷地確保に要する経費は想定しない ○地盤改良はコストを算定(実際の施工は費用対効果を検証) 	<ul style="list-style-type: none"> ○テニスコートは代替施設確保のためのコストを算定(公園内敷地を活用し、代替施設を確保可能であり用地買収不要) ○地盤改良はコストを算定(実際の施工は費用対効果を検証) 		<p>【びわこ文化公園都市】 造成工事のスケジュールは地盤が安定するまでの時間も想定する必要があるのではないかと</p>
式典運営にあたっての課題		<ul style="list-style-type: none"> ○実施本部駐車場の面積不足 →民有地買収等による敷地面積の拡大によりスペース確保(彦根市の協力) ※荒天時の開会式場 →県文化産業交流会館(米原市)、長浜ドーム(長浜市)または彦根市内の体育館等を想定 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分なスペースがあり特に問題なし ※荒天時の開会式場 →野洲市立体育館等、近隣の体育館等を想定 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規整備であり特に問題なし ※荒天時の開会式場 →びわ湖ホール(大津市)または近隣の体育館等を想定 	
その他留意事項		<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産登録に向けた取り組みへの影響 →現在彦根城のバッファゾーンに位置付けられているが、今後登録推進の過程でバッファゾーンの見直しについても検討 ○夜間照明施設利用 →地元自治会に対する丁寧な説明と配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○国体開催時や災害等緊急時における、公園東口からのアクセス改善のため、大型車両の通行を想定した公園内通路の橋りょう整備、道路整備のためのコストを算定 ○国体開会期間中の周辺道路の混雑への懸念があるため、会場へのアクセス改善のためのコスト(スマートインター整備)を算定 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園へのアクセス道路としての都市計画道路の早期整備が望ましい(大津市) 	

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	(各視点の専門委員会での見込み)
2. 事業費試算					
整備に要する経費試算	イニシャルコスト	13,490百万円	12,890百万円	21,700百万円	
(場合によって必要となる経費の試算)	特殊工事(地盤改良・橋りょう工)、代替施設整備費等	4,690百万円 ○地盤対策費 1,370百万円 ○用地補償費 970百万円 ○代替施設整備費 1,740百万円 ○間接費 610百万円	4,880百万円 ○地盤対策費 450百万円 ○橋りょう整備費 1,570百万円 ○代替施設整備費 580百万円 ○関連公共施設整備費 1,640百万円 ○間接費 640百万円	640百万円 ○地盤対策費 340百万円 ○上下水道施設 220百万円 ○間接費 80百万円 ※都市計画道路(大津市)を別途想定(L=1.2km 用地買収・施工費2,900百万円)	
事業費総計		18,180百万円	17,770百万円	22,340百万円	
維持管理経費の試算	(増加するランニングコストの見込み)	166百万円(年間 43百万円の増加)	528百万円(年間 43百万円の増加)	143百万円(年間 143百万円の増加)	
想定される収入の内訳		ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入32百万円、指定管理料124百万円	ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入115百万円、指定管理料403百万円	ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入14百万円、指定管理料119百万円	
3. 整備スケジュール					
スケジュール	整備に要するスケジュール(各種許認可含む)	○民有地買収による敷地拡充が条件となるため、これに要する期間を見込む必要がある	○特になし	○スケジュールに余裕はない	
不確定要素の有無	スムーズな整備の進捗に影響を及ぼす可能性のある事項	○現在の用途地域の変更、高さ規制の特例を認めることが、当該地周辺の景観や環境に及ぼす影響や、世界遺産登録への影響を慎重に検討(彦根市) ○民有地買収に際し、事業説明・交渉を行う必要がある ○市街地での工事であり、周辺家屋への配慮が必要となる		○保安林解除にあたり、当該地域全体における森林の保全方針を明確にする必要がある ○環境アセスメントの過程で、追加調査や追加の対策検討が生じないように進める必要がある ○民有地買収に際し、事業説明・交渉を行う必要がある ○埋蔵文化財の予備調査の結果、保安林区域内で本調査を行う必要が生じた場合、保安林解除後の調査となり、工程に影響が生じる可能性がある ※2月～3月実施予定の試掘結果により調査のめどをつける予定	【彦根総合運動場】 彦根市の現行の風致や景観の規制を変えることは、世界遺産登録を目指すうえでおそらく問題になるため慎重に検討されたほうがよい 【びわこ文化公園】 環境アセスメントや保安林解除、文化財調査など一般的に順調にいくとは考えがたい
4. 大会運営に必要な環境や体制					
競技役員等の確保・地域住民の参画	陸上競技会開催にあたり想定される競技役員等確保の見通し	○彦根市による協力が得られる見込み(参考:彦根市職員数 1,386人) ○彦根市陸上競技協会の開催協力が期待できる	○野洲市、湖南市、竜王町による協力が得られる見込み(参考:野洲市職員数420人、湖南市職員数464人、竜王町職員数130人 計1,014人) ○2市1町での競技会運営となった場合の調整が必要となる ○陸上競技会の運営主体となった場合、他の競技を受け入れるには人員の確保が課題(野洲市) ○他に担当する競技種目の運営負担を勘案する必要がある(湖南市)	○大津市による協力が得られる見込み(参考:大津市職員数 3,005人) ○大津市陸上競技協会の開催協力が期待できる	※参考 東京国体(H25) 主会場所在市(調布市)における陸上競技会への市職員動員実績 1日あたり 83人
付帯施設の整備	臨時駐車場や練習会場の確保見通し	○彦根市による協力が得られる見込み ○臨時駐車場の確保見通し→(検証中) ※投てき練習場 →運動場内(野球場)または金亀公園で想定	○地元2市1町による協力が得られる見込み ○臨時駐車場の確保見通し→(検証中) ※投てき練習場 →公園内で想定	○大津市、草津市による協力が得られる見込み ○臨時駐車場の確保見通し→(検証中) ※投てき練習場 →場内多目的グラウンドないし近隣の学校等(東大津高校他)で想定	
5. 宿泊施設					
宿泊施設の確保可能性	当該市町・隣接市町における施設(収容可能人数)との比較	○いずれの候補地も、所在市町および近隣市町において、現状で陸上競技会の開催で想定される宿泊者数(※2,700人)を越える宿泊定員を備えている。(※H20-H24開催時の、陸上競技選手・監督+各都道府県競技役員、本部役員等宿泊者数合計の平均)			
6. その他					

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	これまでの専門委員会での見解
7 整備に伴う影響					
現施設(エリア)のコンセプト		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和14年開設 ・県民の心身の健全な発達とスポーツの普及振興を図る目的で設置 ・県内唯一の総合運動施設、県民のスポーツの拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和47年開所 ・恵まれた自然環境を生かした、青少年の健全育成のための緑地公園 ・「文化公園は、木々の緑や太陽の光、清らかな空気が訪れる人たちに安らぎを与え、自然を忘れがちな私たちの心のふるさととして、また、明日への生命を甦らせてくれる場として、将来にわたり守り育てていかねばならない滋賀の財産です。」(希望が丘文化公園のビジョン(理念)より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和54年、当該エリアを「びわこ文化公園都市構想区域」に位置づけ ・現在、文化・芸術・医療・福祉・教育・研究・レクリエーション等に関する施設が集積するとともに、緑豊かな住宅地も形成 ・「びわこ文化公園都市将来ビジョン」(H24.8)で示された当該エリアの5つの将来像 <ul style="list-style-type: none"> ①県内外の人々が「交流」する場 ②文化・芸術を「創造」する場 ③未来成長へ「挑戦」する場 ④歴史と暮らしを「紡ぐ」場 ⑤いのちと健康を「支える」場 	
整備後の施設の姿と、影響の考察		<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用)・サブトラック(球技場兼用)・野球場・駐車場(約900台) <p>※テニスコートや多目的グラウンドは、金亀公園(彦根市)との機能補完や、隣接地での追加用地確保による一体化も検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用)・サブトラック(球技場兼用)・野球場・ソフトボール場・スポーツ会館(小体育館)・駐車場(約1,750台)・テニスコート17面(代替機能の場内確保後) <p>(別途、野外活動ゾーンにキャンプ場、文化ゾーン(東口側)に宿泊研修施設(青年の城:宿泊定員360名、大ホール、研修室等)あり)</p> <p>※総じて施設の老朽化が進んでおり、主会場整備に併せ既存施設のあり方を見直し、必要に応じ更新を行うことも検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用)・サブトラック(球技場兼用)・多目的グラウンド・駐車場(約1,000台) 	
これまでの利用状況と、整備による影響		<ul style="list-style-type: none"> ○施設年間利用者数 232,370人(過去5年平均) <p>→プール(同 31,928人)、テニスコート(同 37,986人)への影響が生じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツゾーン 年間利用者数 242,303人(過去5年平均) ※公園全体の年間利用者数 827,743人(同) <p>→テニスコート代替施設を場内に設けることで、特に影響はないと考えられる</p>		
これまでのスポーツ大会・大規模イベント開催実績と、整備に伴う影響		<ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校野球選手権滋賀県大会(県予選) ○関西学生リーグ(アメリカンフットボール)(陸上競技場) ○西日本大学野球選手権大会、近畿地区都市軟式野球近畿大会(野球場) ○全国高校女子選抜研修大会(テニスコート) ※その他 近畿、県域規模の大会開催実績あり <p>→テニスコートの代替機能確保が課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」 ○全国中学校駅伝大会(H9-11) ○全国なでしこサッカー大会 ○ドリームズ・カム・トゥルー野外コンサート(H15) <p>→「芝生ランド」を残す計画であれば機能保全可能</p>		
現在の防災機能と、整備に伴う影響		<p>【現状の防災機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央防災会議「東南海・南海地震応急対策活動要領に基づく具体的な活動内容に係る計画」における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域物資拠点(21万食:受援) ○県地域防災計画における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域陸上輸送拠点 ○滋賀県緊急消防援助隊受援計画 <ul style="list-style-type: none"> 野営可能場所 ○彦根市地域防災計画における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 一時避難場所 防災ヘリコプター指定離着陸場 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> 大人数を収容できる広域避難場所としての機能はない <p>【整備により期待できる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる 	<p>【現状の防災機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央防災会議「東南海・南海地震応急対策活動要領に基づく具体的な活動内容に係る計画」における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域物資拠点(40万食:受援) 活動拠点候補地(警察・消防・自衛隊:受援) ○県地域防災計画における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域陸上輸送拠点 ○滋賀県緊急消防援助隊受援計画 <ul style="list-style-type: none"> 航空部隊進出拠点 野営可能場所 ○滋賀県ヘリコプター受援計画 <ul style="list-style-type: none"> 航空消防隊進出拠点(ヘリベース) ○野洲市地域防災計画における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域陸上輸送拠点 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> 青年の城等により400名程度の避難者の宿泊が可能 <p>【整備により期待できる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる 	<p>【現状の防災機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> (ただし、候補地に隣接する既存施設としての位置づけ) ○県地域防災計画における位置付け <ul style="list-style-type: none"> 広域陸上輸送拠点 ○大津市地域防災計画 <ul style="list-style-type: none"> 救援物資等の備蓄・集積拠点 広域避難地 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> 現状では、大人数を収容できる広域避難場所としての機能はない <p>【整備により期待できる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路からのアクセスと、フレキシブルに使えるスペースが大事 ・県の防災備蓄物資については、現在民間倉庫を借り上げ、県内に分散保管している ・上記以外の災害時緊急支援物資の輸送調整は、設備とノウハウを有する滋賀県倉庫協会との協定により各会員事業者倉庫を活用した協力応援体制を整備中 ・主会場と併せた備蓄倉庫としての整備についてはその必要性・実効性を含め、今後の検討が必要
その他					

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	びわこでの利用可能性(見守)
8. 多目的性(将来の利活用)					
交通アクセス	公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ○JR彦根駅より徒歩20分 ○JR彦根駅よりバス5分(平日6本/日、土日祝4本/日) ○新幹線米原駅から彦根駅 電車5分 	<ul style="list-style-type: none"> ○JR野洲駅よりバス10分(平日13本/日、土日祝12本/日) ○新幹線 京都駅から野洲駅 電車28分(新快速) 同 米原駅から野洲駅 電車24分(新快速) 	<ul style="list-style-type: none"> ○JR瀬田駅より候補地付近(滋賀医大病院)までバス15分(平日80本/日、土日祝46本/日) ○JR南草津駅より候補地付近(滋賀医大病院)までバス15分(平日6本/日、土日祝運行なし)※途中渋滞頻発箇所あり ○新幹線 京都駅から瀬田駅 電車18分(普通) 同 京都駅から南草津駅 電車17分(新快速) 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には高速道路からのアクセスが重要 ・運動施設としては公共交通機関からのアクセスも重要
	自動車交通	<ul style="list-style-type: none"> ○名神高速道路彦根ICより2.9km(約7分)※途中渋滞頻発箇所があるが、県道原松原線の供用(H31)が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名神高速道路栗東ICより約8.8km(約16分)※途中に渋滞頻発箇所あり(バイパス整備計画あり～供用時期未定) ○名神高速道路竜王ICより約11.9km(約28分)※IC出口付近右折時の混雑について懸念あり(竜王町) ○公園東口について、公園内通路の改良(橋りょう整備等)により、緊急時やイベント開催時のアクセス改善可能 →名神高速道路竜王ICより約1.8km(約3分)+公園内通路約4km(場内時速30kmとして約8分) 計約11分 	<ul style="list-style-type: none"> ○新名神高速道路草津上ICより約1.4km(約3分) ○名神高速道路瀬田東ICより約3.2km(約5分)～下り線 ○同瀬田西ICより約5.4km(約9分)～上り線 	
その他施設の配置(導入)の可能性		<ul style="list-style-type: none"> ○民有地買収による敷地拡大が一定見込める。 ○金亀公園(彦根市)との一体化による機能補完の可能性あり(彦根市提案) 	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地に余裕があり、機能付加の可能性を有する(但し保安林解除等の手続きが必要となる場合がある) 	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地拡張は困難 ○運動施設面積率/許容建築面積率に余裕があり、現計画の「多目的グラウンド/オープンスペース」については、他の用途を持つ施設(プール・体育館・テニスコート等)の設置は可能 	
国体開催後の有効活用の可能性	市民の利用				<ul style="list-style-type: none"> ・仮にJリーグ開催を念頭に置く場合、最初から2万人規模の施設を造らないと、後から対応は難しいのではないか ・競技場があるだけの施設ではなく、市民がスポーツ以外にも楽しめる施設、生活の中に密着した施設を目指したオプションの価値をどれだけ付加できるかといった側面からの検討も必要
	防災機能				
	経済・観光				
	学校・大学との連携				
	その他				

「比較評価調査(素案)」評価表イメージ

【資料6】

項目	相模総合運動場	希望が丘文化公園	ひわろ文化公園都市
実現可能性	施設整備にあたっての課題		
	法令上の課題		
	整備上の課題		
	式典運営にあたっての課題		
	その他留意事項		
	事業費試算		
	整備に要する経費 (場合によって必要となる経費)		
	維持管理経費		
	収入見込		
	整備スケジュール		
	スケジュール		
	不確定要素の有無		
	大会運営に必要な環境や体制		
	競技役員等の確保・地域住民の参画		
	付帯施設の整備		
	宿泊施設		
宿泊施設の確保可能性			
(その他)			
評 価			

整備に伴う影響	整備後の施設の姿と、影響の考察		
	これまでの利用状況と整備による影響		
	これまでのスポーツ大会・大規模イベント開催実績と整備に伴う影響		
	現在の防災機能と整備による影響		
	(その他)		
評 価			

多目的性(将来の利活用)	交通アクセス		
	公共交通機関		
	自動車交通		
	その他施設の配置(導入)可能性		
	市民の日常的利用		
	防災機能		
	経済・観光		
学校・大学との連携			
(その他)			
評 価			

